

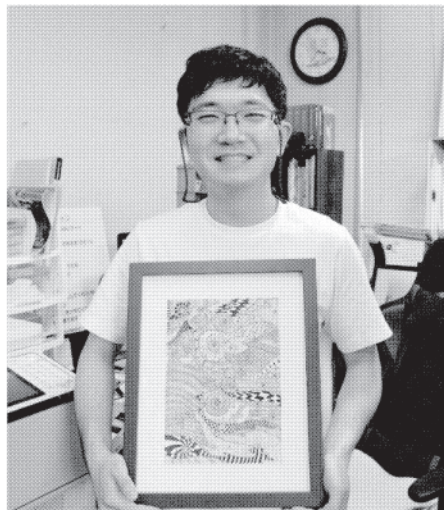


114

中学生向け 年組

難聴の画家が初個展

活動10年、節目に約50点



自身の作品「NAMI」を手にする関口さん

線画技法で描く緻密作

関口さんは生まれつき難聴で、主に口の動きを読み取ることで意思疎通を図っている。小学生の頃から造形作品を作っていたほか、絵本「えんとつ町のプペル」など緻密な作風で知られる西野亮廣さんの絵画作品を

好むなど、芸術に①が愛着があったという。本格的に画家としての活動を開始したのは18歳の時で、その年に「おしま手づくり絵本コンクール」2012で銀賞を受賞した。阿佐ヶ谷美術専門学校（東

京都杉並区）で学び、家族の助けを借りながら多くの作品を作り上げ、これまでに絵本や絵画のコンクールで賞を受賞している。父の恭一郎さん（59）は「耳があまり聞こえない息子が感じている世界を知ることができたのは、絵を描いてくれたおかげだ」と感慨深そうに話す。さらなる刺激を得るため、現在は鎌倉市へと拠点を移している関口さん。同展の目玉作品となっている「NAMI」は江ノ島の海の②をイメージして描いた作品だという。

個展開催は、活動を始めて10年の節目に当たる。関口さんは「コロナでイベントやギャラリーが減ってしまったからこそ、たくさんの人に楽しんでもらいたい」と笑顔を見せた。

設問

【1】関口さんは主にどのような方法で他者とコミュニケーションをとっていますか。

- 【2】記事の内容と合う選択肢を一つ選びなさい。
- ・ア 活動10年の節目に2度目の個展が開催される。
 - ・イ 普段は足利市を拠点として活動しているが、今回の個展は鎌倉市で開催される。
 - ・ウ 関口さんの生い立ちをまとめた動画が、個展で公開される予定である。
 - ・エ 関口さんは小学生の頃から芸術に興味を持っていた。

【3】関口さんの絵の特徴は何ですか。分かることを箇条書きで挙げなさい。

【4】記事中に用いられている次の熟語の読みをひらがなで書きなさい。

①緻密 ②過程 ③絵画 ④感慨 ⑤覚醒

【5】記事中に用いられている次の語を漢字に直しなさい。

①カンシン ②フウケイ